

のみと木づちに復興への願いを込めて「福幸」を贈る――

「被災地の復興」と「皆さんに幸せがきますように」との願いを込めて、4月下旬に102体のお地藏さんが、岩手県山田町に寄贈されました。

このお地藏さんは、小さな100体が「へ心地蔵」、大きな2体が「福幸願」と名付けられました。作者は金谷の石畳にある「すべらず地藏」の作者でもある、木彫家の鈴木誠司さん。昨年10月から半年かけて制作しました。

【素材へのこだわり】

鈴木さんの工房からは、何とも言えない良い香りが漂ってきます。「クスノキの香りですよ」と、木をさすりながら教えてくれました。「同じクスノキでも、寒い地域で育ったものは、木に粘りがあつていいんです。彫る前に木を十分に見ますよ。木の良さあは大きく作品に影響し



寄贈されたお地藏さんの「福幸願」

ます。このお地藏さんも、新潟県から取り寄せた木でつくりました

【優しさと強さを被災地へ】  
「東日本大震災によって、

ないでほしいと願う、被災者の思いを受け止めながら彫りました」と涙ぐみながら話す鈴木さん。

思いを込めながら半年間、彫り続けたお地藏さんたち



木彫家 鈴木誠司さん（金谷代官町）

それまでの生活が一変してしまつた人たちに、私は何もできないけれども、少しでも心を癒してもらつたことができた。それに、時がたつても、このような大きな被害を忘れ

は、鈴木さんのような優しい笑顔で寄り添う二体仏です。一体、一体に「ひとりじゃないよネ。心のささえに花が咲いたヨ」と鈴木さんの手書きのメッセージが添えられていることでしょう。

ます。余震が続く寄贈先の状況に配慮し、全てのお地藏さんには、耐震対策の細工も施されています。

【家族が背中を押してくれた】

「長い期間かけてお地藏さんばかりを彫るのだから、彫り始める前に家族に話をしましたよ。自分のわがままで迷惑をかけるんじゃないかと思つてね。すると妻が一言『決して途中でやめなさいでくださいね』と言つてくれたんです」

「私は、尼僧の瀬戸内寂聴さんと時々お話をすることがあるんですが、この間も『対話していますか』と聞かれ『はい』と答えたばかりです。私は、いつも、その木と対話をしながら彫るんです。だから、今回の私の思いも協力者の思いも、みんなお地藏さんに伝えてあるんですよ」

鈴木さんの工房できれいに整列して、みちのくへの旅を待つていた102体のお地藏さんたち。今頃は、かわいらしい笑顔で、被災者の皆さんの心を「ほっこり」させていることでしょう。



ひと彫りひと彫りに魂を込める鈴木さん



Shimadian File #37